

第三章 人生で大切なことは人を見て態度を変えること

私の友人で、四十年間以上、社会奉仕活動をしている人がいます。たまたま若いころ企業を立ち上げて、大成功したものですから、財団を作って、もうけた利益を、困っている人を援助することに充てました。困っている人を助けることに自分の人生を捧げた。

高齢者については、高齢者の施設で何か必要なものがあれば、それは買う。若い人で、例えば外国から来て、アジアの国から来て、国から送金が無くなり、日本の大学をやめなければならぬ人には、授業料を出してあげるということをしました。

四十年間以上、ひたすら自分の利益をずっと社会的なことに捧げた。

その人に、「人生で大切なことって、なんだと思う？」と聞くと、「大切なこと？ 人生

で？ それは、人を見て態度を変えることだよ」と言いました。

「なるほどな」と私は思いました。

▽ひとくくりで見る

世の中には信じられる人もいるし、信じられない人もいるわけです。信じられる人と、信じられない人とを間違えては生きていけない。

その人は、寄付をしているわけですから、ずるい人がお金をもらいにたくさん来る。同じ人間だと思っていたら、もう、たちまち巨万の富は消えてしまいます。

だから、人を見て態度を変える。

あ、これはずるい人だな。あ、これは信じられる人だな。これは本当に困っている人だな。これは困った顔をしているけど本当は困っていない人だな。とにかくカテゴリーで見ないで、目の前にいるその人を見る。

だから、四十年間以上そういう寄付が続いているのです。それは、まさに彼が、現実接しているからです。

東南アジアの若い学生にだまされたとします。すると決して「東南アジアの人は信用できない」とは言わない。次に東南アジアの若い学生が来る。「この東南アジアの学生は信用できる」と見れば、大学卒業まで経済的に世話をする。

今、目の前にいる人の刺激に対して、今の自分が反応しているわけです。ところが、カテゴリーで見る人というのは、現在に接していない。

どうしても人間は、体は現在にあるけれども、心は過去にあるになりがちです。

もちろん、これを逆に利用している治療方法もあるのです。

アメリカのボストンの近くに、ベス・イスラエル病院という非常に先端的な治療で効果を上げている病院があります。

その病院が、朝一時間、患者さんに瞑想めいごうの時間を与えています。そして、何をするかと言うと、「今あなたが、一番好きな場所にいることを想像してください」と言って、目をつむり、そこにいる自分を想像してもらおう。

つまり、体は病院にいるけれども、心はその人が一番、居たい場所にいる。不思議な感じがしますが、これが大変な治療効果を上げています。

心と体というのは、非常に関係していますから、心がその人の一番行きたい所に行って、安らかな気持ちになる。

両者はひとつの大きな併発反応の一部なのです*。

ところが、これと逆の人というものも、またいるわけです。現実には。心はここにはない。周りに誠実な人で、信頼できる人がいるのに、誰も信頼していない。

これは、引きこもったりする人は、みんなそうです。信頼できる人がいれば、引きこもる必要はないですから。

だいたい人を信じられて、人とコミュニケーションできれば引きこもりにはならない。引きこもりには人を信じる能力がないのです。

▽人はまちまち

「誰も私の気持ちを分かってくれない」と言う人は、みんなそうです。

「誰も私の気持ちを分かってくれない」と言う人は、「私は誰の気持ちも分からない人」なのです。